

## 視察研修（出張）報告書

令和7年9月22日

十日町市議会議長様

会派名 希望

代表者氏名 根津 年夫

下記のとおり、視察（出張）が終了したので報告します。

|                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |            |      |
|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|------|
| 代表者<br>確認印                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 経 理<br>責任者 | 中林寛暁 |
| 報 告 者                          | 中林寛暁                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |            |      |
| 期 間                            | 令和7年7月2日～令和7年7月4日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |            |      |
| 調 査（ 出 張 ）<br>事 項 及 び<br>訪 問 先 | ①北海道砂川市 株式会社SHIRO 地域と連携した事業展開の取組<br>②北海道札幌市 札幌市役所 札幌健康アプリについて                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |            |      |
| 参 加 者                          | 根津年夫、遠田延雄、大嶋由紀子、中林寛暁                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |            |      |
| ①                              | 【視察研修（出張）の目的】<br>人口15,000人程度の自治体にある、世界的に展開している企業が、地域資源を生かし、地域と連携し様々な取り組みで注目されていて、工場自体が観光の目的地にもなっている。                                                                                                                                                                                                                                                                                      |            |      |
|                                | 【市政との関連性】<br>地域資源の利用、企業の観光地化、地域との連携                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |            |      |
|                                | 【視察研修（出張）の概要】<br>○有名な化粧品会社が地域にあり続ける。<br>・創業者が当時廃校となった小学校を買い取り、工場を設置。地域の財産を地域企業の工場として再利用。<br>・近隣地域の森で生息する、ヨモギなどを活用し化粧品の材料として開発。地域の自然素材を利用することで、地域の自然の豊かさを世界にまで発信している。<br>・北海道産のカラマツやシラカバといった木材を使って現工場を建設。ここでも地域の自然素材の豊かさを活用し、発信している。<br>・みんなの工場では、商品の販売はもちろん、工場見学ツアーが出来、製品が出来るまでの工程が見える化。各工程、開発や研究、商品の製造など全てのブースの壁がガラス張りになっており、顧客への安心感を演出。飲食ブースもあり、商品購入、工場見学など多様な目的での来訪を歓迎し、観光の目的地にもなっている。 |            |      |



・地域の学校とも連携し、職業体験では「働く」という体験だけではなく、労働の対価として、ポイントを報酬としてしっかりと払い、工場内の飲食をポイントで食べることが出来たり、お菓子などと交換してもらうなど、教育の一助になっている。

・近隣地域の飲食店情報ブースを設置。通常パンフレット状になっており、地域の飲食店が複数店詰め込まれ、情報がありすぎるツールであるが、ここでは独自に一店舗ごとのカードを並べ、行きたいところをここで厳選し、必要な店舗のみのカードを来訪者に持っていつてもらおうスタイルで、一店舗の情報しかない分、地図も見やすくパンフレットを見て迷う必要もない。

#### 【視察研修（出張）の成果、市政への反映等】

※視察研修（出張）の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

地元の企業が地元地域の施設や自然素材、自然そのものを活用し、とことん研究した結果、唯一無二の商品が世界的に受け入れられている。やみくもに企業誘致をするより、こういった地元の自然や素材を活かした企業が、創業しやすい環境を整えること、支援体制を構築することが、行政に必要なのではないかと感じました。また、企業と教育、企業と地域の繋がりは重要で、そのパイプ役が行政の仕事ではないかと思っています。当市も豊かな自然があり、豊かな自然素材もあり、これらを十分に有効活用出来るのではないかと考えています。現在でも、自然素材に目を付け取組んでいる方も多くいらっしゃいますが、個人での取り組みが多く、中々大規模に工場を作って、大規模に発信して、というところまでが遠い道のりであるのが現状です。すべてに大きな支援。というのは出来ないと思いますが、厳選し、絞って支援するなどの取組も検討していかなければいけないと感じました。



②

**【視察研修（出張）の目的】**

札幌健康アプリについて

**【市政との関連性】**

既存事業「敬老パス」⇒新規事業「札幌健康アプリ（仮称）」

人口形態の変化に伴う、既存事業の見直し

**【視察研修（出張）の概要】**

札幌市では、昭和50年から続く、「敬老パス」という支援制度があり、70歳以上の市民が、地下鉄やバス、市電などの公共交通を利用する際に、市が支援する制度です。

一定額の自己負担で敬老優遇乗車証を発行。負担額に応じ、市が乗車証に支援額をチャージ。

| 自己負担額   | 市の支援チャージ額 | 実際の利用割合 |
|---------|-----------|---------|
| 1,000円  | 10,000円   | 14.4%   |
| 3,000円  | 20,000円   | 16.9%   |
| 6,000円  | 30,000円   | 8.2%    |
| 8,000円  | 40,000円   | 7.5%    |
| 10,000円 | 50,000円   | 17.3%   |
| 13,500円 | 60,000円   | 6.3%    |
| 17,000円 | 70,000円   | 29.5%   |

以上のように、非常に優遇された制度で、有効期限がなく、利用の少ない方も最高額までチャージする方が多く、制度創設時は市の予算額1,3億円であったものが、物価上昇や高齢者の増加により、令和6年度予算は68億円と非常に市の財政を圧迫している事業となっているのが現状。

この事業は、高齢者に公共交通の支援をすることで、市内業者への支援と、高齢者が外出することを促すことが目的となっている。

現計画では、この「敬老パス」制度を令和8年までに廃止し、新たに「札幌健康アプリ」事業へと移行することになっている。

**「札幌健康アプリ」事業**

背景：介護や医療の費用が増加するなか、今後の高齢化によってさらなる費用の増加が見込まれており、その増加を出来るだけ抑制する必要がある。さらに高齢者の健康寿命延伸に向けた取り組みが新たに必要。

「歩くこと」「健康管理」「人と会う」などの健康行動が重要。

以上のことから、誰でもスマートフォンで行える健康行動を記録できる  
「札幌健康アプリ」（対象年齢40歳以上）を計画。

「歩くこと」「健康管理」「人と会う」などの健康行動を記録できるアプリ。

日々の歩数や体重・血圧の記録、イベントの参加でポイントを獲得。動画視聴やアンケート回答などもポイント付与の対象。

獲得したポイントで電子マネー交換や抽選に応募可能。

65歳以上の市民は獲得したポイントを電子マネーに交換可能。

40～64歳の方はポイントにて景品などの抽選ができる。

#### 「歩く」

- ・スマートフォンを持って歩くことで自動的に歩数をカウント
- ・歩数に応じてポイントを獲得

#### 「健康管理」

- |          |                                          |
|----------|------------------------------------------|
| ・健康チャレンジ | 健康状態の登録（血圧・体重）<br>活動の振り返り（転倒、服薬、自身の目標など） |
| ・健康診断の受診 | 受診した健診を登録                                |
| ・健康チェック  | アプリ上で健康状態をチェックし、フレイルリスクを確認               |

#### 「人と会う」

- ・市民が施設の利用やイベントに参加し、事前発行されたQRコードを読み込み、ポイント獲得

札幌市においてもフレイル予防事業やICTなどへの取組を既存事業を見直し、新しい形として取組んでいく方向なのだと感じます。

### 【視察研修（出張）の成果、市政への反映等】

※視察研修（出張）の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

札幌市は平均寿命が全国平均よりも低く、医療技術の向上などにより、今後高齢者の人口は増加すると見込んでおり、既存の「敬老パス」を継続すると2050年には、事業費が80億円を超えると見込んでいます。高齢化による税収の減少をも見込むと、現事業が財政を圧迫するのは必然と捉え、新規事業への計画に至ったとのことでした。

これから、高齢者に必要なフレイル予防とスマートフォンを利用することでのICT化を見据えた計画です。

ただし、大きな問題点があり、今までの「敬老パス」が優遇されすぎているため、市内全域で反対の運動があり、議会でも継続の請願が出されるなど、未だ確定していない事業です。

当市も少子高齢化、人口減少、税収の減少により、事業を見直さなければいけない状況であることは変わりなく、当局員も頭を悩まされているのではないかと思います。そのうえで、今後フレイル予防や公共交通利用の課題などがあり、参考になる事例なのではないかと思います。どのような事業を継続し、どのように変えていくか。何かを変えたり、なくそうとすれば反発が起こる可能性はあります。勇気をもって事業の計画をしていくのも重要だと感じました。

